

農業委員会だより うえた

題字：農業委員長

第 2 号

平成 19 年 12 月 16 日

発行人 / 上田市農業委員会
会長 佐藤 邦夫
編集 / 農業委員会だより
編集委員会



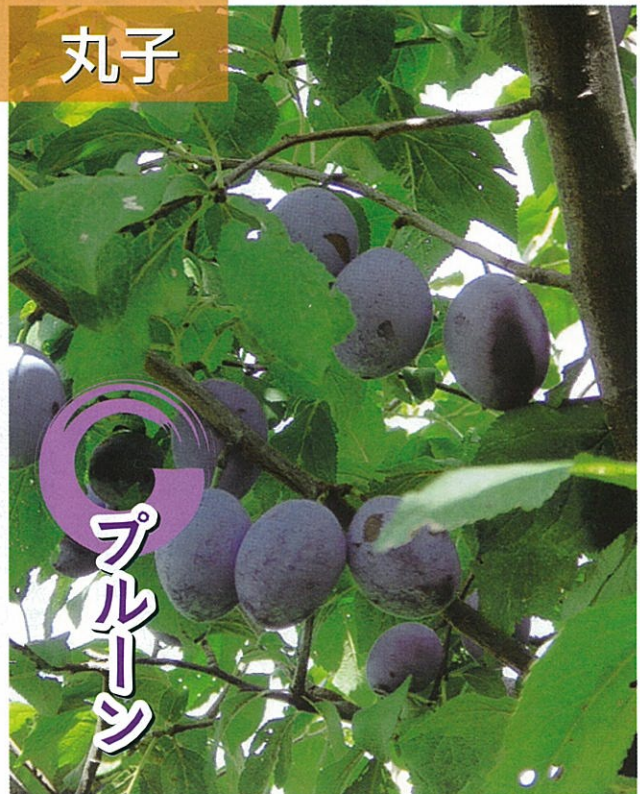
武石



上田



真田



丸子

市長から十九年度建議書の回答が

農業委員会では昨年十一月二十八日市長に建議を行い、その回答が一月十九日にありましたのでお知らせします。

主な建議に対する回答

一 集落営農の推進と担い手育成について

- ・ 集落営農の育成組織化、法人化の推進
- ・ 小規模農家、兼業農家への更なる支援

【回答】関係者のご尽力をいただき、二つの農業生産法人と五地区で集落営農組織が設立された幅広く地域全体を支える施策に取り組む

二 新規就農者の確保育成について

- ・ 各種研修会の実施
- ・ 農業機械導入への利子補給、農業用施設への融資等

【回答】関係機関と連携し、農業経営に関する指導体制を充実する

三 地産地消の推進、食農教育の充実について

- ・ 地域の食文化の継承
- ・ 農産物直売所に対する援助
- ・ 市内全校に学童農園の開設

【回答】今後も地元農産物の使用拡大に取り組み

四 有害鳥獣駆除対策について

- ・ 檻、罠による捕獲数の増加
- ・ 防護施設設置への援助
- ・ 緩衝帯整備への援助

・ 防除技術情報の速やかな提供

【回答】捕獲体制の強化、補助対象の拡大等検討する

五 中山間地域の活性化について

- ・ 稲倉棚田保全の継続的支援
- ・ 須川地区活性化への取り組み
- ・ 丸子地区陣場ブドウ団地への継続的支援

・ 真田地区上洗馬農村公園の早期着工

・ 武石地区の基幹作物取り組みに対する支援

六 遊休荒廃農地の解消対策について

- ・ 連携を図りながら検討する
- ・ 活性化組合などへの支援

【回答】農業委員会とも協議しながら再活性化を進めていく

七 農業振興施策について

- ・ 農業振興地域の見直しを
- ・ 菅平地区の農地造成について
- ・ 農業政策の情報提供について
- ・ 地域特産品の開発について
- ・ きこの生産振興について

【回答】土地利用計画、都市計画マスタープラン策定と平行して農業振興地域の見直しを行なう

八 国・県への要望事項

- ・ 担い手・経営安定対策の実施に際し、地域の实情に即した支援策を
- ・ 農産物の輸入規制について

【回答】関係機関に働きかける

市長に平成二十年年度建議書を提出

農業委員会では十月二十九日、将来に渡って希望が持てる農業の実現に向けた当面の課題をまとめ、市長に建議を行いました。

建議事項要旨

一 集落営農の推進と担い手の育成支援について

- ・ 集落営農の推進
- ・ 担い手の育成支援

二 有害鳥獣駆除対策について

- ・ 研究対策の拡充・強化
- ・ 森林の状況、生息頭数の増加要因等のデータ収集及び公表
- ・ 狩猟者の養成及び広域連携
- ・ 被害防止施設導入等の助成拡充

三 地産地消運動の推進、食農教育の充実について

- ・ 学童農園事業協力体制の構築
- ・ クラブ活動で学童農園の活用
- ・ 保護者に日本型食生活の指導
- ・ 環境保全面の周知
- ・ 給食の使用率向上に向けた連携
- ・ 農産物直売所の連携・指導

【回答】中山間地域の活性化について

四 中山間地域の活性化について

- ・ 須川地区に荒廃地化を防ぐ施策
- ・ 稲倉棚田保全の継続的支援
- ・ 丸子陣場ブドウ団地へのワイナリー等設置の働きかけ

【回答】遊休荒廃農地の解消対策について

五 遊休荒廃農地の解消対策について

- ・ 草刈・耕起等への財政支援

六 農業振興施策について

- ・ 農振農用地区域の見直し
- ・ 上田気象通報所の観測機器の充実
- ・ 堆肥施設の研究
- ・ 特産物の産地維持の支援
- ・ キノコ農家の継続的支援
- ・ 野良の駅（仮称）の設置
- ・ 農地利用調整機能の充実

七 農業委員の職務について

- ・ 多種多様な職務の激増に伴った予算措置

八 国・県への要望事項

- ・ 品目横断的経営安定対策の改善要望
- ・ 農産物の輸入規制



農業委員の活動内容

農業委員会には農地部会・農政部会・振興部会などの部会があり、それぞれ次のような活動を行っています。

農地部会

- 農地関係法令業務
- 農地相談業務と農地流動化の促進
- 無断転用等の未然防止
- その他農地に関する事項

農政部会

- 優良農地の確保と農地の有効利用の促進

携強化

- 農業者年金新規加入の推進
- 情報発信
- 家族経営協定の推進
- その他農業振興に関する事項

この他にも、農業委員はそれぞれの地域・地区において、農地に関する相談受付、農地法の許可審査に係る現地調査、利用権設定に係る利用調整などの活動や、農業を通して地域活動・地域活性化・食農教育など様々な活動に取り組んでいます。

農地の売買、貸借、競売での取得などについて農地所在地の農業委員にご相談ください。

農業経営に役立つ 全国農業新聞を 読みましょう

毎週金曜日発行
購読料は、月六〇〇円
申し込みは、農業委員・農業委員会事務局又は各地域事務所へ
農業委員会事務局 二二二・五四六六
丸子地域事務所 四二一・一〇三七
真田地域事務所 七二一・四三三〇
武石地域事務所 八五二・二八二八

農地の転用(非農地化)は 事前の許可が必要です

地区名	氏名	担当地域
上田	清水 一郎	旧上田・常磐城
	中村 宗作	国分・蒼久保・岩下・大屋
	大田垣清彦	塩尻・秋和
上田東	佐藤 邦夫	古里
	飯田きみ子	【議会】
	邑田 庄治	住吉一部・上野
	中村 節子	【農業共済組合】
	箱山 敏明	町吉田・中吉田・下吉田・林之郷・小井田
川西	柴崎 義和	殿城・漆戸・宮之上・森・大日本・長入
	山崎 弘道	神科上田・住吉一部
	小山 榮夫	岡・浦野・越戸・仁古田
	山岸 征夫	中之条・御所・諏訪形・小牧
	石川 正純	小泉(半過除く)
	田中 正具	福田・吉田・半過
	西澤 道夫	室賀
塩田	中村 力	上田原・築地・下之条・神畑
	手塚 角衛	五加・上本郷・下本郷
	小出啓治郎	舞田・中野・八木沢
	武田 芳徳	十人・前山・新町
	小林 善幸	富士山
	清水 隆雄	古安曾
	荒井 泰雄	別所温泉・手塚・山田・野倉
	曲尾 善徳	下之郷
	小林 隆利	【議会】
	芳坂 栄一	【農業協同組合】
	小林 好雄	上小島・下小島・保野
丸子	伊藤 良夫	上丸子・腰越
	依田 安雄	【土地改良区】中丸子・下丸子
	荻原 定男	東内
	滝沢 浩	平井・西内・鹿教湯温泉
丸子北	久保田博万	長瀬
	堀内 汀	藤原田・塩川一部
	関 與康	塩川一部
	内堀 政士	生田
	金井 紀光	御嶽堂
真田	伊藤 忠治	菅平高原
	桜井 昭雄	本原(西部)
	神田喜久雄	長(西部)
	半田 紀吉	傍陽(北東部)
	若林 正廣	本原(東部)
	古市 順子	【議会】
	大塚 巻雄	長(北東部)
海瀬 正之	傍陽(西部)	
武石	中原 庄司	上武石・小沢根・余里
	小玉 政	上本入・下本入
	小林 功	下武石
	加藤 松子	【議会】鳥屋・沖

任期：平成18年7月20日から3年間

遊休荒廃農地の解消について

農業委員会では、平成十八年度に市内全域の水田を、今年度は畑の遊休荒廃農地実態調査を実施した。真田地域では調査後、該当農家への個別訪問を行い遊休荒廃農地について今後の計画、見直し、予定等をお聴きした。それぞれ遊休荒廃農地となってしまう要因については、簡単には解決できない奥深い事はかりでした。要因の主な内容は大別すると三点位になるかと思われる。

- ① 高齢化、後継者不足
- ② 有害鳥獣による被害
- ③ 農産物価格問題

まず、農業者本人が高齢になり農業が困難、作業機械等が使用できない。後継者は勤務の都合で、勤務地での生活をしており、遠方なので手伝わってもらえない状況である。次は特に二ホンシカ、イノシシの被害が多い。春先馬鈴薯を植付けしても種芋を食べられてしまう、水稲では植付後成長期に葉の食害、収穫期の食害等、被害被害が特に目立っている。三つ目は、農業生産資材費は右肩上がり、生産物は逆に右肩下がり現況の中(特に今年度は米価の値下げは稲作農家にとって大打撃である)、農業経営が危かまれている。

このような諸問題が山積されている遊休荒廃農地の解消対策の一部分として、記してみた。

高齢により作業困難、後継者不足の農家については、農地を委託耕作してもらう。又は所有者本人が周囲に迷惑にならないよう手入れ(草刈)する。有害鳥獣については、捕獲頭数が追いつかないほど増えている現状なので、地域一体での防護柵の設置、被害に遭わないような品目(例えばくるみ、ブルーベリー、ぶどう等)の作付け、緩衝帯の設置。農業所得の激減については、特産物となるような山菜、タマネギ、山うど、ワラビ、山ブキなど地域に合った作物の導入。無農薬、有機栽培、新鮮朝採り、自然乾燥、生産直売により消費者との信頼関係などの農産物の付加価値をつけた有利販売。

いずれにしても農家が生産意欲を持てる農政でなければ、遊休荒廃農地の解消はできません。農地所有者、国、県、市、JA等、関係機関と連携を図り食料自給率の向上、希望もてる農業、農村創りに努力します。

農業委員農政部長代理

桜井昭雄

魅力いっぱい 新しい農業者年金に加入しましょう!

公的年金ならではの税制上の優遇措置があります。

支払った保険料が 全額社会保険料控除になります

保険料の額は、自分が必要とする年金額の目標に向けて、月額2万円から6万7千円までの間で、加入者が自由に決められます。また、経営の状況や老後設計に応じていつでも見直せます。

支払った保険料は、全額が社会保険料控除の対象となり、所得税・住民税の節税(支払った保険料の15~30%程度)につながります。

保険料支払による節税効果(所得税・住民税)試算 (単位:円)

税率	保険料 (月額)		
	2万円の場合	5万円の場合	6万7千円の場合
15%	36,000	90,000	120,600
20%	48,000	120,000	160,800
30%	72,000	180,000	241,200

*目安ですので実際の金額と異なる場合があります

運用益には税金がかかりません

保険料など年金資産は、分散投資による安全かつ効率的な運用を行い、平成14年度から18年度までの運用利回りは年平均約3%で、毎年一人一人に配分します。この運用益に対する税制上の扱いも、通常、預貯金では利息の20%が課税されますが、農業者年金の運用益は非課税です。

受け取る農業者年金は公的年金等控除の対象になります

農業者年金は、原則65歳から受け取ることができる80歳までの保証付の生涯年金です。受け取った農業者年金は、税制上、公的年金等控除の対象となり、65歳以上の方であれば、公的年金等の合計額が120万円までは全額控除の対象となります。

このほかにも、①少子高齢化時代に相応して、自分の年金原資を自分で積み立てる確定拠出型の長期にわたって安心できる年金です。②仮に80歳前になくなった場合でも80歳までに受け取るはずの農業者老齢年金額は死亡一時金として遺族が受給できます。

詳しい内容や加入の申込は、農業委員会事務局又は各地域事務所までお問い合わせください。
農業委員会事務局23-5466 丸子地域42-1037 真田地域72-4330 武石地域85-2828

特色ある 農業をめざして



ハウスミカンに挑戦 見事生産販売に結びつける

市内上野の果樹専業農家、認定農業者の武井久夫さん(五十五歳)は今年ハウスミカンを二トン収穫する予定だ。

四年前和歌山県から取り寄せた温州ミカン「宮川早生」をサクランボ用ハウス五アールに百本植えた。ハウスは標高約五百五十メートルにあり昼夜の温度差は十度以上、上小特有の日照時間の長い気象条件を利用、冬は温風暖房を入れ、水分管理には細心の注意をはらってオレンジ色に着色させた。

糖度十四から十五度の甘酸適和のおいしいミカンを育て上げ今年九月四日みごと初収穫を迎えた。

植付けからこの四年間は常に試験研究、試行錯誤の栽培の連続であったと思われ、その努力に敬意を表したい。

武井さんは果物作りに研究熱心な果

樹農業者だ。現在県果樹研究会桃・サクランボ部会の副部長として活躍。やまじょう果樹部会販売部長の経験から消費者の望むものを見る目は確かだ。その豊かな知識を生かし上田市でもミカン栽培が十分可能なことを立証してみせた。

武井さんは平成三年いち早く二十三アールのサクランボを導入、りんご一ヘクタール強、梨十五アール、桃十アール、ハウスミカン五アール(サクランボを切り替え)等、多品目を栽培する。サクランボを収穫後、りんごの摘果と中生りんご収穫の間にハウスミカンの収穫を組み入れ農作業量の平準化をはかっている。

武井さん夫妻は、「初出荷としては、まずまずのものができた。更に品質の高いミカンを作りたい」と抱負を語っている。

色々な面で支援しているJA信州うえだによると、ハウスものの市場出荷は県内初という。また「今後ミカンはハウスが必要なので、どれだけ面積が増えるか分からないが、多品目経営を希望する果樹農家のミカン作りも支援したい」と話している。

今回独創的なかんきつ類栽培成功は、長野県農業においても、新たな第一歩である。

農業委員 邑田庄治

健康生活のために

「見えない宝物」を子供たちに残しませんか

最近、いろいろな食・健康・心の問題が目立ってきている中で、子供たちへの食育活動の重要性が高まっています。JAでは、米作りや料理教室など体験を通じた地域での食育をずっと続けてきました。今年は、小学生とその保護者を対象に、りんごの栽培体験などさまざまな活動をする親子農業体験教室「ちやくりん倶楽部」を開いています。

メンバーの子供たちは、「トマトって、苗のころからトマトのおいがるんだ」、「りんごって種類が違つとこんなに味やにおいも違つんだね」と、どんな小さな発見でも目を輝かせ、新鮮な言葉で感動を伝えてくれます。子供たちにとって「食」は、健康な体を育てるだけでなく、豊かな心も育てる元だと思えます。この素直で豊かな感性を持つ子供たちに、本当の「食」を伝え、いつまでも元気でそして豊かな心で過ごしてほしい、そう強く思います。

そのために、やはりふだんの家庭での食事は、とても大切だと思います。しかし、ご両親とも忙しい家庭が増えている中、日頃から子供たちとゆつくり食卓を囲み、食の大切さを伝えていくことは難しいのが現状でしょう。そこで、おいしいちゃん・おはあちゃんにはぜひ活躍していただきたいと思えます。例えば、旬のものを食べる、朝ご飯を毎日食べる、家族揃って食事をする、そんなかつて当たり前だったことが、今は失われかけ、実はとても大切だったのだと見直されてきています。今何が旬で、それがどんな風に育てられてきたか。感謝して食べる。主食に主菜・副菜・汁物の揃った食卓。手作りのあたたかさ。身近なところでとれた安全な農産物を、大事に長持ちさせながらおいしく食べる。これまで日本人が培ってきた食のあり方、昔ながらの知恵などを、ぜひ伝えていきたいです。そんな目に見えない宝物を子供たちに残してあげてください。

JA信州うえだ

健康福祉部くらしの相談課 中澤富子



真田

おしえっこ

「ねえねえ、これどうする。」こんな会話から始まった。これは傍陽小学校三年生のきのご教室の一環で料理実習の会話です。春先五月八日きのご教室で原木に種菌を植菌して管理育成してくれ育てたほだ木から茸が付き(きご)少々のきのごが出て来たので料理(食育)する事になり今日に至った。

材料を運び込み、(足りない分はきごの組合で用意)児童が考えて来た献立表を壁に貼り各班が編成。

きのごサラダ、きのごギョウザ、きのごスパゲッティ、きのご汁、きのごはんの五品目。きごこない手付きで始まった。心配していたが時間が経つにつれ次々と進んでいった。

私達きのご組合スタッフ八名は今日お手伝いという事で児童に用事を言いつけられ手伝った。

「時間ない。急いで、急いで。」と先生のげきが飛ぶ。やっと慣れてきた包丁使いもだいが上手になってきた。次々に出来上がってきた料理を皿に盛り付けテーブルに並んだ。

校長先生はじめ職員、先生も加わって試食会に。どこが難しかったか、ど

こが良かったか、どこが苦労したかの話が出て食事になる。

反省会ではどうなるかと思っていたが何とかがまとまって苦労がいがあり、美味しいきのご料理が出来てうれし。家に帰ってお母さんに教えてやる。試食会に加わったみんなもよくもこんな出来たものだと褒めの言葉。おもしろかった、良かったとみんなの後片付けを済ませ終わった。

楽しい時間ひとときであった。ありがと。

農業委員 若林正廣



食

上田

清水平八郎先生の 田んぼの学校



「裸足になって入りなさい。」「エー、ヤダー、キャー」とおそるおそる足を田んぼに入れる。今の子供は田んぼの泥が気持ち悪いようだ。そんな田植入門から稲刈、脱穀と米作り体験が各小学校で行われている。遊休荒廃農地の解消として旧上田市全小学校十六校で米作り体験学習をする事を市長建議した。

清水さん(前農業委員会会長)は地域の方、地方事務所、教育委員会、農業委員会の関係者の協力のもと、旧市内四校(清明、北、西、東小学校)の学校田で十三年間、米作りの先生をされている。

授業の中で「田んぼは水を溜めることにより、毎年稲を作ること

農

農業委員 飯田きみ子

ができる連作作物で、三千年の歴史があり素晴らしいことだ」と教えてくださる。苗床を見せ、縦一尺、横二尺の長さがあること。一尺の畝巾で苗を植えていくこと。収穫祭では、一斗枘一升枘二合枘を見せて量を理解させる。今では尺貫法に触れる機会が少ない子供たちにとっては貴重な学習だ。

稲刈で一番苦戦する稲束を縛る作業では「ぎゅっと強く」と教えても、なかなかうまくいかない。今年は一人で力を合わせ互いに引っ張ることにした。「出来た出来た」とほめ、なんとか仕上がっていく。田んぼならではの生き物たちともふれあい、土の穴の中で見つけたように驚いたり、裸足での泥の感触、汗して働くことなど盛りだくさんの身体で感じる原体験がある。

清水さんは農業一筋に生き、十三年間の農業委員、うち四年間農業委員会会長として地域農業の振興に「尽力され、農林水産大臣賞を受賞されている。

「もう年でしのでためだわい」と言いながらも子供たちに先人の知恵を教え、時には大きな声で叱ることもあるがいつも優しい眼差しで見守り続けている。

「稲の一生は人間の一生によく似ている。共に学び、子供たちからも教えられる人生だ。…」

丸子 おやき学科

丸子北中

まだコスモス大学と名前がつかない頃から二年生を対象に、男子七名女子十三名、すべてえだまめの会の計画で始まりました。えだまめの種まきから草とり、収穫、それを具にしてのおやき作り。その年の秋には野沢菜の種まき、間引き、草とり、それを塩漬けにして三月にあさつゆで作り販売。一個七十円。次の年からコスモス大学としてスタート。おやき学科は男子一名、女子二十一名、地域の人九名を巻き込んでの一年。この年もえだまめの種まきから始まりました。この年は県の味のコンクールに出品紫イモをつかっこのおやき、重曹に化学反応をおこし、あのきれいな紫色がでず、緑色のおやきができて



しまいました。でも皆満足でした。

今年で四年目、今年男子十五名、女子十六名、地域の人五名を巻き込んでのおやき学科。私達えだまめの会としては男子の十五名の参加はともうれしいです。若い人達に郷土食のおやきを継承できると思うと力が入ります。昨年もそうでしたが、今年も塩川敬老園のお年寄りとの交流会。九月十三日、別の日に具を作り、当日朝六時三十分よりおやき作り。抹茶入り皮にあんこの具、シンプルに野沢菜、ひじきの具と各七十個ずつ、二百十個を授業前に作り上げ、コスモス大学時間に敬老園でお年寄りとの交流会。大いに喜び昔懐かしい重曹を使つての黄色い皮のおやきを食へながらおいしい、おいしいと。孫と同じ年頃の丸子北中の生徒に肩もみしてもらいながら、将棋の相手をしている男子生徒、お年寄りと一緒に歌を歌いながら一緒におやきを食へました。時間が短くあつという間に終わりました。もつと時間があればこの生徒の声、私達もホッとして心が温かくなりました。あのおいしいそうにおやきを食へるおじいちゃん顔を思い浮かべながら、来年もお年寄りとの交流会をしよう、続けようと強く思いました。

えだまめの会 藤森たか江

教 育

武石

in みそづくり



地域の皆さんに指導していただいた)を持ち込んでグループの皆さんに手伝ってもらい、みそ仕込みに挑戦しました。どうでしたか。子供達に感想を聞いてみました。

- ・楽しかったこと一位は大豆と糀と塩を混ぜること。
- ・大変だったこと一位は大豆と糀と塩を混ぜること。

これは、みそづくりで一番大切なところ。子供達は色々わかってくれたようです。

グループ員より一言、家族がつくってくれたみそ汁を、感謝して食へてほしいですね。三年生の皆さんごころうさまでした。

農業委員 加藤松子

「あー、しみる。」「あー、冷たい。」

「あー、気持ち悪い。」素手でみそづくりを体感しました。

平成十九年二月六日、武石小学校三年生四十八名が、武石生活改善グループみそ班が作業する加工所へ。自分達の手がけた米(学校田で)、大豆(地



日本棚田百選「稲倉棚田」



(一) ほたる火まつり

七月二十一日、辺りが夕闇に包まれる頃、千本のろうそくが棚田の輪郭を浮かび上がらせる。その変化していく光景はなんとも言えない美しさで幻想的な世界に私達をいざない堪能させてくれる。ちようちゃんは地元豊殿小学校児童らが思い思いに描いた絵入りペットボトルで棚田保全委員が三メートル間隔で畦に並べたものだ。

梅雨時のこの企画は当日の天気が一番の悩みである。昨年は昼間の突然の雨で中止だった。今年は大雨でない限り必ずやると決め、雨よけペットボトルを考え、ぶどうの袋の上の傘を利用して一枚一枚ホッチキスでとめ千個作った。一週間前の草刈に六十人も来て畦もきれいにした。皆の願いが届き、静寂の棚田と私達の心を六時間余、見事にライトアップしてくれた。

(二) 牛の「舌」草刈で

郷耕し事業

九月二十一日、遊休農地解消シンポジウムが上田市で開かれ、稲倉棚田の取り組みが紹介された。また、「牛の舌草刈で郷耕し事業」の現地見学も行った。

牛の舌草刈は県の事業として棚田堰免地区二ヘクタール総延長九百メートルに電牧柵を設置し、遊休農地の解消と野生獣害の軽減及び子取り用牛飼育コスト低減を目的として、八月に二頭、九月に三頭の牛を放牧した。この地区

は昨年、二千五百坪の田を復旧したものの収穫寸前にイノシシに全滅された附近だ。近年注目されているのが、この放牧で野生獣害対策としての効果だ。雑草の生い茂る遊休農地はイノシシなどの隠れ場所になる。放牧で牛が草を食べていると野生獣がおりてこないという効果があった。

農業委員農政部長・
稲倉棚田保全委員長 柴崎義和

あとがき

上田市農業委員会として第二号の「農業委員会だより」を発行することができました。

今回は、各地域の農業を通しての地域活動や食農教育等の一端を紹介してまいりましたが、「農業委員会だより」を読まれて、このようなことも取り上げて欲しいということがございましたら、編集委員までご連絡いただければと思います。

今後も上田市の農業が活性化する一助となるように発行してまいります。

〔編集委員〕

- 代表 久保田博方
- 副代表 中村 節子
- 委員 邑田 庄治・飯田きみ子
- 若林 正廣・加藤 松子